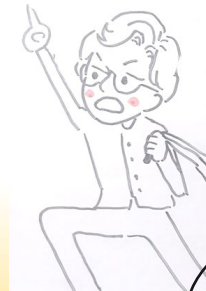




# 初めて機構統合した大学の 図書館の取り組みについて

-岐阜大学図書館と名古屋大学附属図書館の挑戦-



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立  
大学機構



岐阜大学

東海国立大学機構 機構長補佐  
岐阜大学副学長 (多様性・人権・図書館担当)  
岐阜大学図書館長 大藪 千穂

# 本日の内容

1. 東海国立大学機構
2. 岐阜大学図書館と名古屋大学附属図書館
3. 図書館の機構連携
4. 連携の成果
5. 2年が経って・・・



# 1. 東海国立大学機構



MAKE NEW STANDARDS.  
東海国立  
大学機構



岐阜大学

# 1. 東海国立大学機構 ① 概要

2020年4月 東海地域の2つの国立大学法人が東海国立大学機構としてスタート  
大学・産業界・地域の発展の好循環を生み出す新たな大学モデルの創造

MAKE NEW STANDARDS.

岐阜大学 × 名古屋大学 = ∞(無限大) 2018年12/25に合意



—法人複数大学制度については、以下を参照(2019年1月公表、3月報告書。制度構想は2012年)  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/092/gaiyou/1414767.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/092/gaiyou/1414767.htm)

# 1. 東海国立大学機構 ② 位置

## 岐阜大学と名古屋大学との距離感

移動時間： 1時間30分～50分ほど  
(公共交通機関経由)

(各交通機関の最短時間)

JR岐阜駅⇒JR名古屋駅 快速19分

岐阜駅⇒岐阜大学 バス30分

名古屋駅⇒名古屋大学 地下鉄17分



# 1. 東海国立大学機構 ③ 歴史

## 【岐阜大学の沿革】

- 1871(明治4)年 師範研修学校
- 1875(明治8)年 岐阜県公立病院附属医学校
- 1949(昭和24)年 岐阜大学  
学芸学部と農学部の2学部からスタート
- 1964(昭和39)年 医学部設置  
岐阜県立医科大学との統合
- 2004(平成16)年 国立大学法人に移行  
農学部から応用生物科学部に改組, 医学研究科・  
医学部・附属病院が柳戸キャンパスに移転
- 2019(令和元)年 開学70周年式典

## 【名古屋大学の沿革】

- 1871(明治4)年 名古屋県仮病院・仮学校
- 1939(昭和14)年 名古屋帝国大学
- 1949(昭和24)年 名古屋大学  
文学部、医学部など6学部2研究所からスタート
- 1960(昭和35)年 豊田講堂竣工
- 2004(平成16)年 国立大学法人に移行
- 2018(平成30)年 指定国立大学法人

2020(令和2)年4月 日本初の国立大学の機構統合, 東海国立大学機構の発足!

# 1. 東海国立大学機構 ④ 各大学の組織



<https://www.thers.ac.jp/about/gov/director/index.html>

岐阜大学執行部



<https://www.gifu-u.ac.jp/about/overview/gov.html>

名古屋大学執行部



<https://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/gov/index.html>

# 1. 東海国立大学機構 ⑤ 規模

## 【岐阜大学の概要】

**組織規模：** 5学部 8研究科

**学生数：**

学部学生 5,640人

大学院学生 1,596人

**教職員数：**

教員 1,117人（常勤 618）

職員 1,954人（常勤 1,006）

**施設規模:**(借入221,596を除く)

土地 6,335,246㎡

建物 322,579㎡

## 【名古屋大学の概要】

**組織規模：** 9学部13研究科

**学生数：**

学部学生 9,565人

大学院学生 6,206人

**教職員数：**

教員 2,247人（常勤 1,712）

職員 5,116人（常勤 2,201）

**施設規模:**(借入1,572,585を除く)

土地 1,640,573㎡

建物 808,137㎡





岐阜大学



名古屋大学

## 2. 岐阜大学図書館と 名古屋大学附属図書館



アーカイブ・コア



OKB大垣共立銀行  
高木家文書資料館

## 2. 岐阜大学図書館と名古屋大学附属図書館 ① 歴史

### 【岐阜大学図書館の沿革】

- 1949(昭和24)年 附属図書館発足  
(本館、学芸学部分館、農学部分館)
- 1982(昭和57)年 附属図書館本館開館
- 2004(平成16)年 事務組織改編  
(「附属図書館」から「図書館」に名称も変更)
- 2007(平成19)年 医学図書館開館
- 2019(令和元)年 **アーカイブ・コア**設置  
(本館内に大学博物館機能)

### 【名古屋大学附属図書館の沿革】

- 1939(昭和14)年 医学部構内に附属図書館開設。各学部に図書分室設置
- 1948(昭和23)年 中区へ移転
- 1964(昭和39)年 古川図書館(中央図書館)開館
- 1981(昭和56)年 新中央図書館開館
- 1994(平成6)年 中央図書館増築
- 2009(平成21)年 ラーニング・コモンズ設置
- 2017(平成29)年 図書館事務組織再編
- 2018(平成30)年 OKB高木家文書資料館設置

2020(令和2)年4月 図書館の機構連携を開始!

## 2. 岐阜大学図書館と名古屋大学附属図書館 ② 規模

### 【岐阜大学図書館】

#### (主な統計)

蔵書冊数 : 921,339 冊  
電子ジャーナル : 9,253 タイトル  
電子ブック : 22,462 タイトル  
2021年度入館者数 : 151,978人  
2021年度貸出冊数 : 46,741冊  
2021年度資料費総額 : 約1.7億円

#### (体制)

- 2館
- 職員数 : 10人 (正規)

### 【名古屋大学附属図書館】

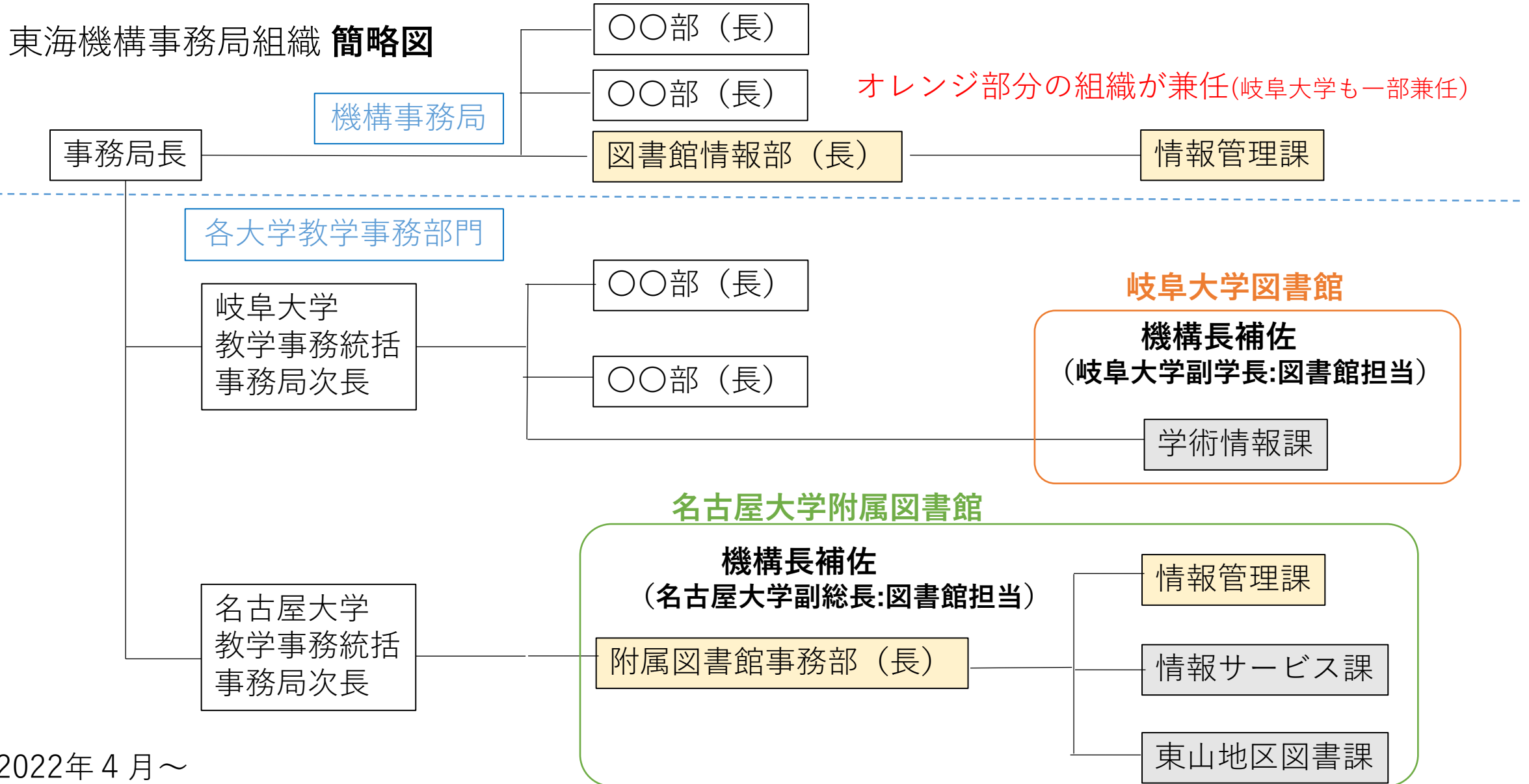
#### (主な統計)

蔵書冊数 : 3,362,929 冊  
電子ジャーナル : 22,660 タイトル  
電子ブック : 46,785 タイトル  
2021年度入館者数 : 418,101人  
2021年度貸出冊数 : 143,453冊  
2021年度資料費総額 : 約8.7億円

#### (体制)

- 1館1分館25部局図書室
- 職員数 : 53人 (正規)

## 2. 岐阜大学図書館と名古屋大学附属図書館 ③ 組織





# 3. 図書館の機構連携





# 3. 図書館の機構連携 ① 「グランドデザイン2021」の策定

◆ 統合により、両大学の図書館が機構における役割を検討する中で「**機構図書館**」としての目標やミッションの必要性を認識。

◆ 2021年3月、両大学図書館職員がアイデアを出しあい、**機構図書館**としてのミッションや方向性をまとめた  
⇒ 「**グランドデザイン2021**」

<https://www.lib.gifu-u.ac.jp/downloads/granddesign2021.pdf>

## ■ 機構図書館のミッション

デジタルの進展によって情報があふれる世界において、人と情報を結ぶ**図書館の役割**はより重要になる。

世界中のどこからでも、いつでも、教育研究に必要な資料やサービスが利用できる**デジタルライブラリー機能**と、創造的学習を支援する**フィジカルな図書館機能**を充実させ、世界で活躍する**人材の育成**に貢献するとともに、地域特有の文化・歴史を広く世界に向けて発信し、**教育研究の振興**に貢献する。

東海国立大学機構 図書館グランドデザイン2021

**世界屈指の教育・研究を支える糧となる**

■ 機構図書館のミッション  
デジタルの進展によって情報があふれる世界において、人と情報を結ぶ図書館の役割はより重要になる。  
世界中のどこからでも、いつでも、教育研究に必要な資料やサービスが利用できるデジタルライブラリー機能と、創造的学習を支援するフィジカルな図書館機能を充実させ、世界で活躍する人材の育成に貢献するとともに、地域特有の文化・歴史を広く世界に向けて発信し、教育研究の振興に貢献する。

■ 学修・教育支援 ■	■ 研究支援 ■	■ 社会貢献 ■
<p>人と情報を結び、学びのパートナーとなる図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学修・教育に関する相談窓口の強化、顔の見える専門職員チームによるサポート</li> <li>教員のパートナーとなり授業に沿った調査支援・情報リテラシー教育実施</li> <li>電子書籍等、リモート学習教材の充実</li> <li>with コロナのアクティブラーニングスペース再構築、Libファブラが設置により学生の創造的能力を引き出す学習環境を提供</li> <li>アカデミックセントラルを通じて両大学の共通教育に貢献</li> <li>オンライン授業コンテンツのアーカイブ支援</li> </ul>	<p>オープンサイエンスを推進する図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究成果の管理・共有に関する相談窓口の強化、顔の見える専門職員チームによるサポート</li> <li>研究データの管理・共有、研究成果物の公開・社会に向けたアピールを推進</li> <li>関連部署、各分野の教員とデータフォーマット管理のガイドラインを作成し、研究ノートの一元管理を支援</li> <li>電子ジャーナル等研究に必要な資料へのアクセス確保、機構契約によるメリット</li> </ul>	<p>地域に根ざした知的・文化的施設としての図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>岐阜大学のアーカイブコアの博物史料、名古屋大学の高木家文書等の貴重資料の活用</li> <li>貴重資料をデジタル化し、ジャパンサーチ連携により世界に向けて発信</li> <li>機構プラットフォーム棟のミッションに貢献</li> <li>資料と人、人と人をつなぐ場として、地域社会の生涯学習・キャリア教育に寄与</li> <li>特定基金事業のPRや支援者との対話を通じて、地域社会との強固な信頼関係を構築</li> </ul>

■ 蔵書構築/図書館運営 ■

大学の学術基盤を整え、機構内外から頼りになる存在として成長し続ける図書館

- デジタル時代のRight-Scalingな蔵書構築
- 基本業務（運用・収集・管理、全国共同データベースへの登録・整理、提供（貸出/返却）、レファレンス（こんなことを調べたい等の疑問に資料や探し方を紹介）、ILL（海外を含む他大学との資料の貸借等）、リテラシー教育（情報の正しい探求、分析・評価・発信スキル向上）講習会の企画・実施等）の業務効率化を図るとともに、これら業務経験の複合的積み上げにより深化する専門性を活かして新たなサービスを展開

人材育成

岐阜大学・名古屋大学の職員が一体となった専門職集団としてこれらの取り組みを支え、さらなる専門性向上に努めることにより世界に冠たる東海国立大学機構の学術基盤を支え教育研究の振興に貢献

- **学修・教育支援**  
学びのパートナー
- **研究支援**  
オープンサイエンス推進
- **社会貢献**  
アーカイブコア/デジタル化
- **蔵書構築/図書館運営**  
デジタル時代の蔵書構築  
業務効率化と専門性

東海国立大学機構 図書館グランドデザイン2021

## 世界屈指の教育・研究を支える糧となる

### ■ 機構図書館のミッション

デジタルの進展によって情報があふれる世界において、人と情報を結ぶ図書館の役割はより重要になる。  
世界中のどこからでも、いつでも、教育研究に必要な資料やサービスが利用できるデジタルライブラリー機能と、創造的学習を支援するフィジカルな図書館機能を充実させ、世界で活躍する人材の育成に貢献するとともに、地域特有の文化・歴史を広く世界に向けて発信し、教育研究の振興に貢献する。

### ■ 学修・教育支援 ■

人と情報を結び、学びのパートナーとなる図書館

- ・ 学修・教育に関する相談窓口の強化、顔の見える専門職員チームによるサポート
- ・ 教員のパートナーとなり授業に沿った調査支援・情報リテラシー教育実施
- ・ 電子書籍等、リモート学習教材の充実
- ・ withコロナのアクティブラーニングスペース再構築、Libファブラボ設置により学生の創造的能力を引き出す学習環境を提供
- ・ アカデミックセントラルを通じて両大学の共通教育に貢献
- ・ オンライン授業コンテンツのアーカイブ支援

### ■ 研究支援 ■

オープンサイエンスを推進する図書館

- ・ 研究成果の管理・共有に関する相談窓口の強化、顔の見える専門職員チームによるサポート
- ・ 研究データの管理・共有、研究成果物の公開・社会に向けたアピールを推進
- ・ 関連部署、各分野の教員とデータフォーマット管理のガイドラインを作成し、研究ノートの一元管理を支援
- ・ 電子ジャーナル等研究に必要な資料へのアクセス確保、機構契約によるメリット

### ■ 社会貢献 ■

地域に根ざした知的・文化的施設としての図書館

- ・ 岐阜大学のアーカイブコアの博物史料、名古屋大学の高木家文書等の貴重資料の活用
- ・ 貴重資料をデジタル化し、ジャパンサーチ連携により世界に向けて発信
- ・ 機構プラットフォーム棟のミッションに貢献
- ・ 資料と人、人と人をつなぐ場として、地域社会の生涯学習・キャリア教育に寄与
- ・ 特定基金事業のPRや支援者との対話を通じて、地域社会との強固な信頼関係を構築

### ■ 蔵書構築/図書館運営 ■

大学の学術基盤を整え、機構内外から頼りになる存在として成長し続ける図書館

- ・ **デジタル時代のRight-Scalingな蔵書構築**
- ・ 基本業務（選書・収集・管理、全国共同データベースへの登録・整理、提供（貸出/返却）、レファレンス（こんなことを調べたい等の疑問に資料や探し方を紹介）、ILL（海外を含む他大学との資料の貸借等）、リテラシー教育（情報の正しい探索、分析・評価・発信スキル向上）講習会の企画・実施等）の業務効率化を図るとともに、これら業務経験の複合的積み上げにより深化する専門性を活かして新たなサービスを展開

人材  
育成

岐阜大学・名古屋大学の職員が一体となった専門職集団としてこれらの取り組みを支え、さらなる専門性向上に努めることにより世界に冠たる東海国立大学機構の学術基盤を支え教育研究の振興に貢献

### 3. 図書館の機構連携 ③ プロジェクトチームの結成

- ◆ 「**グランドデザイン2021**」を実現していく上で  
両大学図書館の職員により、テーマ毎に**プロジェクトチーム**(PT)を組織
- ◆ 初年(2021年)度は **6 チーム延べ27人**でスタート
- ① 学術情報リテラシー    ② オープンサイエンス    ③ 社会連携・社会貢献
- ④ 図書館DX                ⑤ 蔵書構築                                ⑥ 図書館広報
- ◆ メンバーは管理職（課長）以外の職員で組織。自主的に動くように結成
- ◆ プロジェクトチーム(タスクによってはサブチーム)
- ◆ 定期的なオンライン会議や、chatによる意見交換、ファイルの共有など、毎日のように他大学職員とコミュニケーションを交わすことも
- ◆ 各プロジェクトチームの成果報告を「両館長ミーティング(年3回程)」で定期的に報告





## 4. 連携の成果



## 4. 連携の成果 ① 成果 1

### ◆機構統合した初年度（2020年度）から以下を実施

#### ○機構所属者へのサービスの共通化（学生・教職員）

- ・ 閲覧と貸出条件（岐阜大学図書館，名古屋大学中央図書館・医学分館）
- ・ ILL，館内コピーに対する学内者料金の適用
- ・ 参考調査サービス
- ・ 一部のグループ学習施設の利用（条件付）
- ・ 名古屋大学主催のオンライン講習会の1つを岐阜大学の学生向けに開放

#### ○スケールメリットを活かした電子リソース等の契約交渉（詳細は守秘義務）



## 4. 連携の成果 ② 成果2 プロジェクトチーム活動での活性化①②

◆2021年度は**プロジェクトチーム**（PT）で**機構図書館**としての課題に取り組む

### ①オープンサイエンス PT

**目標: 学術データ公開に関する整備を行い、オープンサイエンスを推進する**

- ・研究データ公開支援の広報サイトの作成と公開（名古屋大学）
- ・研究データ管理実証実験への協力とデータ公開フローの検討（名古屋大学）
- ・学内のデジタルアーカイブ利活用の検討と調査の実施（名古屋大学）

### ②学術情報リテラシー PT

**目標: 教員と連携した学術情報リテラシー教育の推進を行う**

- ・翌年度の初年次教育向け講習会の新カリキュラムへの対応（名古屋大学）
- ・専門教育対応講習会（理学・法学・情報）の立上げ支援（名古屋大学）
- ・学術情報リテラシー教育に関する研修の実施（名古屋大学）
- ・機構としての大学間連携に関する検討
- ・**名古屋大学のオンライン講習会の岐阜大学提供の増加**



### ③図書館広報 PT

**目標:** 効果的な広報により機構内外での図書館プレゼンスを向上させることで、  
世界水準の教育研究を支える図書館提供リソースの更なる活用促進を目的

- ・ 附属図書館SNS 2種の管理運営方法の確立・実施 (Twitter・Facebook) (名古屋大学)
- ・ 図書館内協力体制および機構内組織との連携強化
- ・ 既存ツールと他機関事例分析結果からの広報戦略提案
- ・ 新規広報手段の開拓

### ④図書館DX PT

**目標:** 図書館サービス・図書館業務のDX推進を目的とする

- ・ 両大学の図書館業務システム統合の検討
- ・ チャットボットの導入 (名古屋大学)
- ・ 図書館オンライン相談の本実施に向けた運用検討(名古屋大学)

## 4. 連携の成果 ②成果2 プロジェクトチーム活動での活性化⑤⑥

### ⑤蔵書構築 PT

目標: デジタル時代にふさわしい蔵書構築の推進に取り組む

- ・ 電子書籍の充実と書架狭隘化解消に向けた方策の検討
- ・ 自館資料のデジタル化計画と著作権法等に関する調査
- ・ オープンアクセス掲載費APC に関するアンケート調査(名古屋大学・岐阜大学)

### ⑥社会貢献・社会連携 PT

目標: 大学図書館と市民社会との連携と相互貢献を推進する

- ・ オープンキャンパスでのオンライン企画参加(名古屋大学)
- ・ 附属図書館OKB高木家文書資料館の展示替え(名古屋大学)
- ・ **機構図書館連携による岐阜シンポジウムの実施(岐阜大学)**

(主催: 岐阜大学, 企画: 岐阜大学図書館, 協力: 名古屋大学附属図書館)

- ・ 附属図書館クラウドファンディング (第2弾) 関連事業の企画検討(名古屋大学)



## 4. 連携の成果 ③成果まとめ

- 機構図書館としての目標「**グランドデザイン2021**」を作成した
- 目標を実施するために、職員の自主的な参加を基にした両大学混成の**プロジェクトチーム**（P T）をタスク毎に結成した  
P Tの報告を定期的に両図書館長が聞く場を設けたり、各P Tには管理職（課長）がオブザーバとして関与した
- 離れていてもコミュニケーションツールを使い、職員同士の関係が親密になり、気軽に提案や相談ができるようになった  
例：オンライン講習会の開放の拡大、連携企画のスムーズな運営

# 5. 2年経って・・・



# 5. 2年が経って・・・①よかった点(^▽^)

- ◆小規模大学にとっては、大規模大学の事例や情報が大変参考になる  
⇔大規模大学にとっては、小規模大学からのメリットは少ないのでは・・・
- ◆コミュニケーションツールを使うことにより、離れていても業務連携は可能
- ◆スケールメリットを活かした契約交渉
- ◆連携により講習会のシェア促進

2022年度

講演会  
附属図書館 新入生応援企画

高校での学びと  
大学での学びは  
何が違うのか

授業への心構えや  
大学生らしい学びに  
ついてお話しします

大学の授業に  
不安はありませんか？  
講演会の中で  
お答えします

名古屋大学/岐阜大学  
対象 学部新入生  
学部生・大学院生・教職員等

4/20 (水)講演の  
アーカイブを  
公開しています

講師: 大谷 尚 名誉教授  
(名古屋大学 高大接続研究センター 研究員)

進行: 高橋 まりな 特任助教  
(名古屋大学 高大接続研究センター)

動画: NUCT

詳細: 附属図書館webサイト>講習会  
<https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/guide/literacy/guidance.html#chet>

お問合せ 名古屋大学附属図書館 情報サービス課 調査学習支援グループ  
E-mail: sanko@nul.nagoya-u.ac.jp

2022年度

問題解決手法に基づく  
論文テーマ設定の考え方

テーマの設定は研究において大変重要であるにもかかわらず、体系的な考え方を学ぶ機会ほとんど提供されません。  
この講座では、企業などで用いられる問題解決手法を用いた研究テーマ設定の手順を提案します。

アーカイブ公開

<https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/guide/literacy/guidance.html#theme>

講師: 西山 聖久 特任講師  
名古屋大学国際機構特任講師、タシメント工科大学副学長

主な: 「理工系のAI英作文術 誰でも簡単に正確な英文が書ける」  
著書 「理工系なら必ず知っておきたい 英語論文を読みこなす技術」  
「最短ルートで迷子にならない! 理工系の英語論文執筆講座」

対象: 名古屋大学と岐阜大学の  
学部生・大学院生・教職員

お問合せ: 名古屋大学附属図書館 情報サービス課 調査学習支援グループ  
E-mail: sanko@nul.nagoya-u.ac.jp



## 5. 2年が経って・・・②課題

### ○課題

- ◆規模(人と財政)が違いすぎるので、図書館を含め全てが名古屋大学主導になりがち?
- ◆初年度のP Tの活動では、名古屋大学附属図書館が直面している課題についての検討に岐阜大学が参加するケースが多かった
- ◆岐阜大・名古屋大で全く同じサービスやツールを導入できると教員から思われるが、できないことが多々ある
- ◆機構連携の内容が両大学のスタッフ全員(非常勤も含め)に浸透していないことも・・・

### ○変更点

2022年度は参加メンバーの負担(複数兼任)減少, 両大学に共通する課題や連携企画やサービスに集約したP Tの構成にして全体の数を減らした(6⇒4)

- ①情報リテラシー
- ②オープンサイエンス
- ③ 図書館D X・連携サービス
- ④蔵書構築

2022年度は、さらに活動が活発化。現在 進行中!

## 5.2年が経って・・・③今後の期待～考慮すべき示唆～

- ◆全員が機構・名古屋大学・岐阜大学に関心を持つこと!!
- ◆**機構図書館**として取り組む部分と**各大学図書館独自**で取り組む部分を切りわけながら、効率的かつ利用者にとって効果的なサービスとなる活動に引き続き取り組む
- ◆全国の大学図書館においても、講習会の相乗り実施や情報リテラシー講習会の作成資料のOA化により、各館が資料作成にかかる時間を短縮し、他のサービス時間に充てることが可能となる。  
(但し著作者へのリスペクトと著作物のクレジットは忘れず！)
- ◆まだ始まったばかり。これから進化していく必要あり
- ◆挑戦はこれからも続く～



ご清聴ありがとうございました！

